

北海道医療センターニュース

H 山の手だよ



【理念】「人と自然の健康と調和を大切にする医療を実践します」

■発行所／
独立行政法人 国立病院機構
北海道医療センター

■発行責任者／
事務部長 小野寺 正逸

札幌市西区山の手5条7丁目1-1
電話 (011) 611-8111
FAX (011) 611-5820
ホームページアドレス／
<http://www.hosp.go.jp/hokkaidomc/>

第2号 2012年2月発行

—2012 新年—

北海道医療センターの役割

院長 宇根 良衛

この冬はことのほか寒さが厳しく、降雪も多く地域によっては激甚災害ともいべき状態になっています。昨年激しい災害に見舞われた東北の被災地の方々には、寒さという新たな戦いの中におられることと思います。災害関連疾患も増加していると聞きます。まだまだ地道な支援が求められていると思います。さらに原発の被害により、当初考えられたよりも広範囲な被爆が問題になっており、最大の懸念材料は内部被爆などの長期的な影響がまったく先の読めない状況にあるということです。原発に代わる安全な自然エネルギーの利用を真剣に考える時期にきていると考えます。

さて、北海道医療センターは長い準備期間を経て、さまざまな過程を経て開院しました。

療養所同士が、新たな機能をもつ医療センターを立ち上げるというのは初めての事業であり、3年目を迎えるにあたり、その動向は全国的にも耳目を集めています。

今年目標としては、昨年に引き続き、救急医療・急性期医療のさらなる推進・充実、さまざまな高度で安全な診療機能の強化、研修環境の充実、治験を含む研究部を発展させること、神経・筋、結核、精神医療の有効な運営などがあります。また、病院全体の機能強化としてはDPCの導入、地域医療支援病院の要件獲得、病院機能評価への対応などがより直近の達成目標となります。

多種多様な医療機能を持っている中で、救命救急センターなどの急性期医療は地域において知名度も上がりつつあります。さらにセーフティーネットとしての役割を果たすべく、予防医学外来などを含め、さらにさまざまな医療の展開に向けて鋭意取り組んで行くことが求められているものの、従来から担ってきました他の医療機関では行えないいわゆる政策医療の分野における運営状況は厳しく組織の改編も視野に入れた国をあげての取り組みがなされるべきと考えます。

医療は国民の社会保障の根幹をなすものであり、質の高い安全なものでなくてはなりません。組織体制や建物を整備することは必要なことではありますが、それを生かすのは人と人との血の通ったつながりであり、皆様のご理解とご意見を賜れば幸いです。



羊蹄山1000m付近を登る

医療者を育てる病院として



副院長・臨床研修センター長
河田 哲也



当院は前身の西札幌病院から看護学校を併設し、医療を実践しながら医療技術者を育てる教育施設として永年実績を重ねてまいりました。新たな北海道医療センターとしてスタートしてもう少して3年目となり、診療機能の高まりと同時にその教育機能への社会からの要求も高まりつつあります。こうした我々の側面を地域の皆様にご紹介させていただきたく、その概要をご説明申し上げます。

附属看護学校は当院に先駆けて新築され、北東に位置する斬新な建物として注目を集めていました。札幌市内にある国

立病院機構の看護学校3校をここに集約し、平成15年より一学年80名の看護専門学校となって新たにスタートしました。学生総数240名、教職員13名で3年制の看護師育成施設として創設からは68年の実績があります。卒業生の多くが北海道内の様々な医療機関の医療を支え、毎年20名強の方が当施設に看護師として新任されます。病棟では看護実習が実施され、患者の皆様にもご協力をいただき、看護の心や技術を実際の医療で学ばせていただいております。



現在、若い医師の臨床研修は制度的に初期と後期の2つに分けて実施されています。初期臨床研修は大学卒業後2年間の義務研修で、これを修了しなければ臨床医として働くことができません。注射の仕方や、患者さんとの対応から始めてそれぞれ1～2ヶ月の期間で様々な診療科を経験しつつ臨床医としての基礎的な技量を身につけます。当院は4年前より初期臨床研修病院となり、現在9名の若い医師が皆様の診療に加わらせていただいています。当院では、研修医の診療にあたっては必ず上級の医師が監督し、その指導のもとにチームの一員として動き、研修医のみの判断で診療行為を行うことはありません。



初期臨床研修が終了した医師は、それぞれの判断で後期研修施設を選択します。後期研修は、実際の・専門的な診療技能を身につけ、いわゆる「独り立ち」できる医師となるためのコースです。診療科により異なりますが、普通は3～5年の期間で、より主体的に診療に参加しつつ学会発表や論文発表などを経て専門領域学会が認定する「専門医」資格を取得することを一般目標とします。現在当院には3人の後期研修医がおり、診療の最前線で活躍しています。ただ、それぞれの後期研修医も指導医が監督する体制となっており、毎回の回診やカンファレンスなどを通して具体的な指導が行われます。

このように多くの若い医療技術者が集うことは、施設の活性化と医療レベル向上に不可欠と言われています。未熟な職員が医療にあたると思うと不安がよぎりますが、常に上級者や周りの職員が指導にあたるため、ある意味では独断を避けて客観的な判断のもとに診療が行われる傾向となります。さらに勉強しなければ若い人を指導できませんので、日々発展展開する医療を職員が勉強し診療技術を向上する原動力ともなるのです。

医療はまさに日進月歩で、当院の担うべき診療内容は拡大してゆきます。我々すべての職員は、皆様の期待に添うため、今後も職員相互切磋琢磨し、より高い診療機能が全うできるようがんばってゆく所存です。住民・患者の皆様には当院の研修につきご理解をいただくとともに、ご意見ご要望をお寄せいただきますようお願いいたします。

Dr.Kaunitz による 特別講演

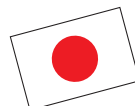
親日家の消化器専門医来院

庶務班長 中小田 潤

8月25日（火）米国西口サンゼルス退役軍人協会病院（VAMC）の消化器内科准主任として臨床・研究・教育に従事され、国立病院機構の留学システムのお世話をいただいているDr.Kaunitzが、臨床研修医の指導及び米国の研修システムの一端を若い医師に経験してもらうことを目的として来院されました。

当日は、慣れない英語を駆使して研修医が症例カンファレンスを行い、ベッドサイドではDr.Kaunitzからの「手取り足取り」ティーチング、最後は「英語論文の書き方」と題し特別講演をしていただきました。研修医にとっては、普段経験できない貴重な体験をしたものと思います。

夜は病院近くのお寿司屋さんでDr.Kaunitzを交えて懇親会を開き、お寿司や茶碗蒸しなどを堪能していただきました。日本酒「鬼ころし」が大層気に入ったようでした。



新年のあいさつ

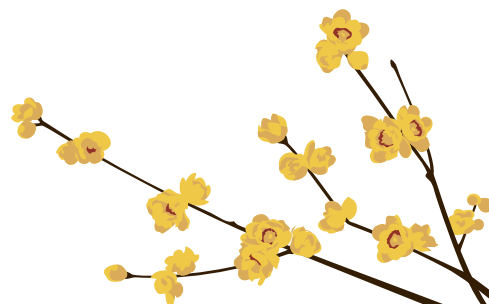


統括診療部長
伊藤 美夫

平成22年3月にオープンした北海道医療センターは今年で2回目の新年を迎えることになりました。新病院開設当時は西札幌病院、札幌南病院からの患者の移送、新設科の開設、さらに新しい病院システムの導入など、怒涛の最中でのスタートでした。受付時間、診察待ち時間、会計時間など外来の諸問題、入退院、患者対応、サービスの問題、さらに急患の対応など、ご意見箱には常時様々な御意見、御批判等で溢れかえっておりました。さらに病院内各部門からの要望、意見を受けながらも、少しずつ問題点を解決して、何とか診療機能は軌道に乗りつつあります。外来、入院患者がしだいに増える中、急性期から慢性期まで幅広い疾患を担当する病院としての責任の重大さを改めて痛感しております。当院は病院運営について大きな課題を多数抱えておりますが、まずは診療優先でしっかりとした体制を構築しなければならないこと、さらに安全な医療体制も同時に確立しなければならないことは言うまでもありません。皆様の期待に応えられるよう全力をつくしていきたいと思っております。

昨年は未曾有の大震災に襲われた年でした。すべての国民が自分に何が出来るのかを、一人ひとりが真剣に考えた年でもありました。この惨状を私たちは風化させることなく、しっかりと後世に伝えなければなりません。一方、被災地が徐々に復興し、被災者の皆様の笑顔や元気な姿が少しずつ取り戻されるのを見て、逆に勇気づけられたりしております。一日も早い復興を引き続き願ってやみません。震災の影響でしょうか、「復興」、「絆」という言葉が流行っています。当院としては「ポスト再生プラン（新生プラン）」、「連携」と受け止めてよいのかもしれないかもしれません。機構本部、地域の関係者から多くの課題と大きな期待を受け賜っておりますが、当院の目標は言うまでも無く国民の健康と生命を守る使命であります。被災地への災害救急医療にも参加いたしました。災害拠点病院としての体制も構築しつつあります。皆様の「いのち」を守るセンター病院であり続けられるよう、今後もより一層努力する所存であります。

今年もよろしくお願いたします。



**クレジットカード
デビットカードでも、
診療費のお支払いが
できます。**

◎**取扱い可能なカード会社**

JCB、ビザ、マスター、ダイナースクラブ、
アメリカンエクスプレス、Jデビット加盟銀行

◎**支払可能回数**…1回、3回以上、リボ払い

◎**取り扱い時間**…平日・休日（24時間）

※ただしデビットカードについては、発行会社により一部
お取り扱いできない時間帯がございますので、ご了承ください。
その他詳細は、1階医事⑤⑥番料金支払窓口でお尋ねください。

実習が看護学生を大きく育てます

北海道医療センター附属札幌看護学校
副学校長

小川 ひろみ



当院の附属機関であります、看護学校で副学校長を務めさせていただいております小川と申します。この書面を借りて、当校の紹介と皆様へお願いをしたいと思っております。

当校の校舎は、北海道医療センター正面玄関右向いにあり、ヨーロピアン調の3階建ての建物です。開校当初、珍しいデザインのためか玄関前からテレビ中継されたこともありました。外観におとらず、校舎内も厚生労働省（平成16年3月までは厚労省直営）が設計・整備したこともあって、看護教育環境として、理想的な設備が施されています。



実習室は20台のベッドが配備され、学生は看護技術の練習に励んでいます。写真は臥床患者さんのリネン交換の場面です。学生は交代でベッドに臥床し、患者さんの不安や不快な思いがどのような時に起こるのかを体得してゆきます。白衣を着た時の姿勢や振る舞いについても指導を受け、臨床実習に向けて備えています。

3年間の当校の教育課程は総単位数99単位、総時間数3030時間の内容を有しており、中でも最も時間を費やしているのが23単位（1035時間）の臨地実習です。実習は主に病院で行い、そこで出会う患者さんを通して様々なことを学んでゆきます。患者さん毎に年齢、病名、治療、検査等皆それぞれ違います。学生はその時に出会った一人の患者さんに「看護として何が必要か」「どうすることが看護となるのか」を学び、その患者さんに必要な看護を実践してゆきます。23単位の实習では、様々な病棟（外科・内科・小児・産婦人科・精神科等）や老人保健施設・訪問看護ステーション等での実習があり、看護師になるための知識・技術そして態度を養います。患者さんと直接かかわり、会話し看護実践を繰り返すことで、成長してゆきます。

人口統計によると、今後未曾有の超高齢社会となる我が国は、看護師の増員は必須の課題となっており、法律（看護師等の人材確保の促進に関する法律）を定めて取り組んでいるところです。一人でも多くの若者が、看護師を目指してほしい。現代の保健医療福祉の現場で貢献できる看護師に育ててほしい。という願いは国民に共通する願いでもあると思っております。

「実習が看護学生を大きく育てます」というキャッチフレーズは平成21年3月に、厚生労働省が作製したポスターの言葉です。看護学生の実習に、どうかご協力をよろしくお願い申し上げます。



消化器センター…2-2病棟

看護師長 奈良 明子

消化器内科と外科の病棟でベッド数は50床です。

入院されている患者様は、札幌市内はもとより道内各地からいらしています。消化器疾患の診断および外科手術、内視鏡治療、化学療法などを行っており、救急患者の対応も積極的に行っています。

医師・看護師・薬剤師をはじめ様々な職種がチームとなり、患者様の気持ちに寄り添い、安心して手術・治療を終了し退院できるようサポートしています。

手術前後の患者様の回診は医師と看護師で行っています



内視鏡検査・治療は毎日行われています



血液浄化センター

看護師長 樋口 ゆかり

透析室は、北海道医療センターの開設に伴い、新たに“血液浄化センター”となりました。ここ数年、透析患者の増加は著しく、全国で29万人を超えています。長期透析患者、75歳以上の高齢透析患者、さらに様々な疾患を抱え入院しながら透析治療を受ける患者様も多くなっている中、当センターは18床を有し、血液透析を中心に各種血液浄化療法を行っています。周辺の透析施設と連携し、透析導入後の安定した患者様を紹介させていただいたり、他科との連携によって、検査や治療、手術目的の入院患者様を受け入れたり、出張や旅行等で遠方の施設より紹介された患者様を受け入れるなど血液浄化センターとしての地域における役割も大きくなっています。

私達は“治療を受ける患者様に少しでも和やかに過ごしていただきたい”という思いから、昨年より待合コーナーの掲示板を利用し、季節にちなんだ色とりどりの作品を掲示するようにしました。看護サービスの一環として始めたものですが、患者様からも好評の声をいただき、毎月楽しみにしてくれているため、スタッフもお互い案を出し合い楽しみながら製作に取り組んでいます。それらの掲示物を通して患者様とスタッフはもちろん、患者様同士の会話も弾み、明るく笑顔にあふれた空間となっています。

今後もスタッフ一同、透析患者様がご自分のライフスタイルに合った治療が受けられるようにお手伝いさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。



平成23年度 国立病院機構 北海道医療センター

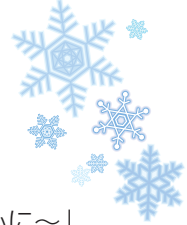
「神経・筋疾患」研修会

日時：平成24年2月25日（土）13：30～16：40

会場：ホテルさっぽろ芸文館（旧北海道厚生年金会館）3階「清流の間」

テーマ

クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD） “希少難病疾患の現況と課題”



I 一般講演 13：35～14：40

- 1) 「北海道医療センターにおけるCJDの現況～医原性CJDの長期生存例を中心に～」
北海道医療センター 神経内科医長 藤木 直人
- 2) CJD患者の看護～日々のケア、感染対策に関すること～
北海道医療センター 神経筋センター 看護師 小林 直子

II 指定発言 14：40～15：00

- 「北海道における難病対策について」
北海道保健福祉部健康安全局特定疾患グループ主査 富井 敏彦

III 特別講演 15：15～16：15

- 「プリオン病：北海道における発病状況について」
医療法人北祐会北祐会神経内科病院 院長 若森 文雄
参加希望の方は病院までお問い合わせください。

平成23年度
HMC臨床研修セミナー
感染症専門医シリーズ3

意外に教わらない、 内服抗菌薬overview

日時：平成24年3月1日（木）18：00～19：30

会場：北海道医療センター 5階 大会議室

講師：医療法人湊仁会 手稲湊仁会病院

総合内科・感染症科医長／感染症科チーフ兼感染対策室長

岸田 直樹 先生

対象：初期・後期臨床研修医・医師・その他医療スタッフ



当院の初期臨床研修の一環として「臨床研修セミナー」を開催しております。本年度の感染症専門医シリーズ3回目として、手稲湊仁会病院の岸田先生に感染症対応の最新知識をお話いただきます。

今回のセミナーは臨床研修医のみならず他の医療スタッフにも参加いただける内容ですので、近隣の医療関係の皆様にも広くご参加下さい。

主催：国立病院機構 北海道医療センター 臨床研修委員会・地域連携室

連絡先・企画課 佐藤純也、管理課 柿崎一洋

参加希望の方は病院までお問い合わせください。

地域医療連携症例報告会のお知らせ

第7回 地域医療連携 症例報告会

日 時 平成24年3月7日（水） 18：30～19：30

場 所 国立病院機構 北海道医療センター 5階 大会議室
札幌市西区山の手5条7丁目 TEL：011-611-8111

後 援 北海道医師会、札幌市医師会

講 演 18：30～19：30（途中 質疑応答）

症例報告 1. リウマチ科
「著明なIgG高値を呈した検診で腎機能低下を指摘された一例
市川 健司、竹内 理恵

2. 他1題「当院に紹介いただいた症例より」

参加希望の方は病院までお問い合わせください。

編 集 後 記

静かに新年を迎えることが出来たと思いきや、例年になく厳しい寒さと、豪雪の様子が連日映し出される今年の冬です。

当院を取り巻く環境も、静かに見守ってくれる状況ではないようです。

1月20日に閣議決定された「独立行政法人の制度及び組織の見直しの基本方針」によれば、当院が属している独立行政法人国立病院機構は「固有の根拠法に基づき設立される法人とする」となり、平成26年4月を目途に新たな法人へ移行することが決まりました。今後、制度設計等が慌ただしく進められることになるでしょう。

病院運営の宿命である診療報酬改定も4月に控えています。

その概要も少しずつ見えてきましたが、当院の病院運営にどのような影響を与えるのか、こまぎれに出される情報に振り回されている状況です。特に当院は4月からDPC対象病院となります。病院に付与される各係数が不明の中、DPC病院のデータと当院の試算表を眺めながら移行の準備を行っているところです。

そして、当院は国立病院機構の中で、平成24年度からの3ヵ年で経常収支100%以上を目指す、新たな「再生プラン」対象病院の候補と指名されています。

現在検討しているいろいろな方策を速やかに実現し、病院運営の改善を図ることが求められています。どれもこれも、病院職員が一丸となって取り組まなければ解決しない問題です。

以前別な投稿で記したことがありますが、病院という組織は休むことを許されない組織のようです。今年一年も忙しい年になりそうだと観念し、春を待ちわびています。

発行責任者 事務部長 小野寺 正逸

ATMをご利用下さい。

売店内に設置しております。

稼働時間／7：00～20：00



敷地内全面禁煙について

当院は敷地内禁煙となっておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

外来担当医師一覧

(平成24年1月4日現在)

【受付時間】午前8:30~11:00 午後1:00~3:00 (一部の科のみ)

※土曜午後、日曜、祝日は休診 (土曜午前は地域医療機関からの紹介患者さまに限り受付)

国立病院機構 北海道医療センター

診療科		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	備考		
内科	リウマチ科 (膠原病)	午前 午後	市川 —	竹内 市川	市川 —	竹内 市川	市川 竹内		
	呼吸器内科	午前 午後	小倉 中山	山本(宏) —	中山 —	小倉 網島	山本(宏) —		
	呼吸器内科②	午前	鎌田	—	網島	—	鎌田	午前診療のみ	
	糖尿病・脂質代謝内科	午前 午後(再診)	中垣 担当医 中垣	加藤(雅) 担当医 加藤(雅)	加藤(雅) 担当医 加藤(雅)	加藤(雅) 中垣 加藤(雅)	加藤(雅) 担当医 中垣	初診は午前のみ 火・水・金曜日の担当 医はオンコール対応	
	消化器内科	午前 午後	中原(初診) 大原	木村(初診) 葭内	矢花(初診) 大原/中原	葭内(初診) 木村	担当医(初診) 矢花	初診/再診 完全予約制	
	消化器・アレルギー科	午前	渡邊	渡邊	—	渡邊	—	完全予約制	
	腎臓内科	午前 午後	宮本(再診) —	山本(準)(初診) —	河田(初診) 河田(再診)	山村(初診・再診) 山村(再診)	河田(初診) —	総合診療科は河田医師(月~金曜日、午前)でオンコール/腎臓内科初診と兼任/月曜日午前再診のみ	
	循環器内科	午前 午後(予約)	岡本(初診) 葭島/武藤(SAS) 佐藤(不整脈)	寺西(初診) 井上 乗安	岡本(初診) 寺西 竹中	岡本(初診) 別役 藤田	竹中(初診) 寺西 武藤	初診/再診 再診/SAS外来は完全予約制 再診	
	神経内科	午前 午後(一般) 午後(専門)	藤木 新野 田代	菊地 土井 藤木	南 新野 —	土井 藤木 —	南 菊地 —	月曜日午後の難病相談 外来は北海道難病医療 ネットワークからの紹介 患者様に限る 完全予約制	
	外科	外科	午前 午後	宇根 高橋(宏)	許 —	伊藤(美) 菊地	植村 —	若山 —	木曜日午後は完全予約制 第4金曜日はストマ外来
		呼吸器外科	午前	—	—	大坂	—	渡邊	午前診療のみ
		心臓血管外科	午前	—	石橋(初診) 川崎	—	石橋(初診) 森本	—	—
小児科	午前(一般)	星井	長尾	長尾	荒木	星井	完全予約制 紹介又は予約制 完全予約制		
	午前(専門)	長尾(アレルギー)	荒木(腎臓)	星井(腎臓、奇数週) 荒木(腎臓、偶数週)	長尾(遺伝・代謝) (遺伝カウンセリング)	星井(腎臓)			
	午後(一般)	長尾・森井(奇数週) 荒木・森井(偶数週)	星井・森井	荒木・森井	長尾・森井	荒木・森井			
	午後(専門)	荒木(腎臓)	星井(腎臓)	若井(小児神経、1・2・3週)	星井(腎臓)	星井(腎臓)			
整形外科	午前	新納 宮城	宮城 —	高橋(土) 新納	高橋(土) —	宮城 新納	初診/再診 再診		
	午後	—	—	高橋(土)	—	—			
リハビリテーション科	午前	高橋(土)	—	—	—	—	午前診療のみ		
泌尿器科	午前	第2/4月曜のみ 笹村/小林	笹村 —	小林 —	笹村 —	小林 —	午前診療のみ 午後は検査・手術		
婦人科	午前 午後	齋藤/河井/大隅 —	大隅 —	齋藤 齋藤	女性医師外来 10:00~14:00	河井 河井/大隅	木曜日は女性医師による診察 午後完全予約制		
皮膚科	午前	廣崎 塚本	塚本 —	廣崎 塚本	廣崎 塚本	廣崎 塚本	午前診療のみ		
精神科	午前	担当医(初診) —	松永(初診) 岩田(再診)	成田(初診) 加藤(再診)	加藤(初診) 松永(再診)	岩田(初診) 成田(再診)	当院入院中の方のみ		
耳鼻咽喉科	午前 午後	鈴木/北尾 鈴木/北尾	鈴木/北尾 —	— —	鈴木/北尾 —	鈴木/北尾 —	火曜日完全予約制		
脳神経外科	午前 午後	安喰 —	安田 —	担当医 —	牛越 牛越(脳血管内治療外来)	担当医 —	水・金曜日の担当医は初診のみ 木曜日午後は専門外来 【完全予約制、初診は紹介のみ】		
眼科	午前	中村/董	中村/董	中村	中村/董	中村/董	午前診療のみ		

※都合により、代診・休診となる場合がございますので、事前にご確認願います。 ※病院代表電話 011-611-8111